

余市町における広域的な観光・交流拠点等形成のための道の駅再編基盤整備検討調査

1. 調査の目的・必要性

広域交通の結節点となる当地において、広域的な観光・交流の拠点を形成するため、民間事業者による観光案内所の設置、観光イベントやツアーの実施、地産レストランの設置等と合わせて、道の駅の整備に係る施設配置検討、概略設計、整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討等を行う。

2. 調査内容

- 道の駅（駐車場、休憩施設、地域振興施設、情報発信施設、広場、バスターミナル等）の整備に係る整備効果の検討、配置検討及び概略設計等
- 道の駅の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

3. 調査成果

①道の駅の整備に係る整備効果及び施設配置・概略設計

●再編の方向性

- 3つの機能
- ①広域観光振興及び産業振興のための拠点の形成
 - ②後志地域の交通結節点の形成
 - ③町民の交流の場の形成

テーマ：余市町への経済波及効果と光のアップライトを高める道の駅の形成

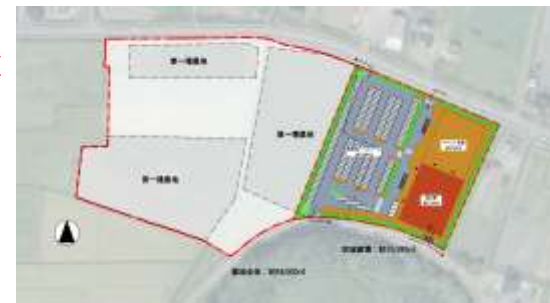
コンセプト(キーワード)： 個店で稼ぐ
リテを核とした食の魅力の実体験 滞在時間の増加
気軽に訪れることができる 住民の光のアップライトの向上

●施設整備の方向性

導入機能
施設イメージ
地域連携
情報発信
休憩
付帯施設

●配置・概略設計

- 必要な区域面積：約16,380㎡
- ゾーニングは駐車場を敷地西側、建物を南東側、広場を北東側に配置する案が最適
- 概算工事費：約1,409百万円（税込）と試算



図表1 配置ゾーニング

●経済効果

- 「新たな道の駅」による経済波及効果：847百万円（道の駅単独）
- 町内への流入による地域全体への波及効果：1,243百万円

●交通流量

- 前面道路（道道753号）の容量不足は想定されない
- 出入口を分散した場合、容量の余裕が大きくなるとともに、交通安全面でも優位

②道の駅の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性

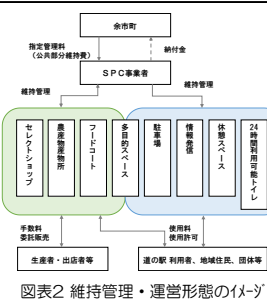
●PPP/PFI導入の優位性

- 設計・施工段階からの創意工夫
- 維持管理・運営に関するリテの蓄積
- 人材確保・育成と適材適所の配置
- 官民による適切なリスク分担
- 財政負担の平準化

整備・運営の一体発注の効果が期待できる
PFI(BTO方式)を想定

●運営形態

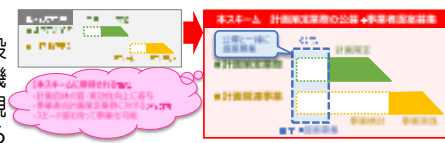
道の駅のテーマコンセプトに沿った統一感のある施設運営に向けて、SPC事業者が全体を統括し、公共部分（トイレ、多目的スペース、バス・トイレ）の維持管理とともに、収益事業部分（レストラン、農産物直売所、フードコート）の各施設についても原則としてSPC事業者が直接管理運営



図表2 維持管理・運営形態のイメージ

●民間提案制度

- 事業の計画策定段階（道の駅導入機能の設定、施設規模の設定等）から民間事業者の提案を受けることが効果的
- 次年度以降、スムーズに民間提案を受けられるよう制度要綱及び募集要項（いずれも案）を作成



図表3 民間提案制度のフロー

道の駅の民間提案に関する募集要項（案）
民間提案制度要綱（案）

4. 基盤整備の見込み・今後の課題

事業実施に向けた課題として、庁内体制の構築や用地取得に向けた対応等が挙げられる。これらの課題を踏まえ、令和8年度頃の開業に向けた取組を進める

R3年度

- 民間提案募集
- 地質、埋蔵文化財調査等

R4年度

- 事業者選定等

R5年度

- 土地鑑定
- 用地取得
- 実施設計等

R6年度以降

- 建設工事
- 開業等